



2022年9月豊洲キャンパス本部棟オープン

# 芝浦建築会 2025

会報

**VOL.4**

volume

4

# 芝浦建築会 2025

## C O N T E N T S

会長挨拶	在学生の支援と卒業生の拠り所となる芝浦建築会	功刀 強	3
理事長寄稿	芝浦建築会 会報『第4号』に寄せて	鈴見 健夫	4
校友会寄稿	「芝浦建築会 会報(第4号)」に寄せて	加藤 善次郎	4
卒業生の輪	元初を考える	武井 良祐	5
	運がいいなあ	佐藤 晋平	6
	'在る'ということ否定しない	金子 知弘	6
	設備設計者として	高須 眸	7
	アイデンティティ	小野 真徳	8
	好きなことを見つけてそれを避けてうろうろする	堀木 俊	9
	「建築」してますか	石黒 光	9
	頼り頼られの関係で	徳田 直之	10
	—自由な人間でありたい—	辻垣 正彦	10
	芝浦建築会の更なる発展に向けて	百瀬 和浩	10
教員研紹介	着任のご挨拶	本多 久美子	11
	着任のご挨拶	小金井 真	11
	退職のご挨拶	篠崎 道彦	12
	退職のご挨拶	横山 計三	12
	退職のご挨拶	佐藤 香寿実	13
学科報告	2024年度の学科の近況と学生の活躍	秋元 孝之	13
2024年度芝浦建築会会費納入者及び寄付者			15
イベント	「坂倉建築研究所展」(別紙)		16
	「芝浦工業大学名誉理事長 石川洋美先生を偲ぶ会」		
会計報告	2024年度会計報告	2025年度予算案	16
会費納入のお願い			16
2025年役員名簿			16
あとがき		川口 英樹	16



功刀 強（くぬぎ つよし）

1976年 工学部建築学科卒

1978年 大学院修了

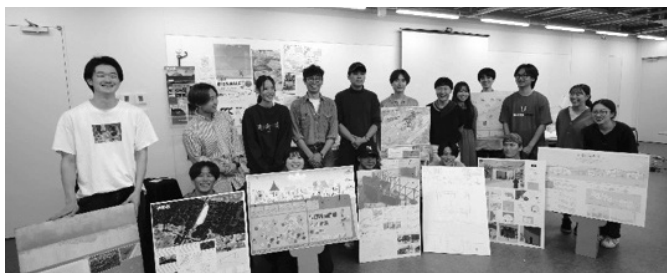
今年、初日の出を河口湖畔で迎え、事故や災害の無い一年になりますよう祈りました。会員の皆様は如何がお過ごしでしょうか。2017年に建築学部建築学科が誕生し、今までの卒業生の会の活動も継承する新たな建築学部建築学科の卒業生の会『芝浦建築会』を2021年12月に創設し、2023年に校友会にも参加させて頂き、卒業生の幅広い交流を目指す活動をしています。新学部の建築学科は2025年3月に第5回目の卒業生を送り出しました。

今回『芝浦建築会』会報は、過去10年に遡り会費を納入し、紙の会報が欲しいという会員に送付し、学部・大学院の全在生には配布します。またホームページでは『芝浦建築会』の活動報告やイベントをタイムリーに配信し、この会報も送付と同時に掲載しております。

旧工学部建築学科では世界文化遺産の国立西洋美術館を4人位の学生の共同による模型製作する課題があり、新学部建築学科SAコースではこの課題を継承しています。ル・コルビュジェの設計と言われていますが、実際には基本設計のみで、実施設計はル・コルビュジェのアトリエに在籍した坂倉準三、前川國男、吉阪隆正の三氏が設計したと聞いています。この設計に携わった坂倉準三氏の意志を継ぐ坂倉建築研究所には大木代表を含め当大学出身者が9名所属しています。本年12月12日、13日に坂倉建築研究所の協力を得、国立西洋美術館建設の経緯や坂倉建築研究所の歴史、本学卒業所員の活躍などを現役の学生や卒業生を交え、語り・交歓するイベントを交流プラザで計画しています。多くの在生、卒業生に参加して頂き、楽しい時間を過ごして頂きたいと思っています。

2024年度の活動を振り返りますと、2024年10月に本大学の全学生が参加可能なデザインチャンピオンシップの公開審査会が開催され、出題と審査は建築家であり東京芸術大学准教授中山英之先生の『水の通り道』という課題に応えた提出案を先生に審査して頂きました。『芝浦建築会』からは私と松寿幹事、徳田幹事の3人で参加し、学生には『芝浦建築会』はこのイベントを支援し、このイベントに参加し課題に応えることの意義を伝え、中山先生には的確な講評して頂いたことに謝辞を述べさせて頂きました。

2024年12月の役員会是对面とリモート併用で開催し、会報第3号の報告と芝浦建築会賞の受賞基準を確認し役員会は終了し、役員活動を労いました。



審査風景

年が明け2025年3月に建築学科及び建築学専攻の学位記・表彰状授与式が豊洲の大講義室にて催され、『芝浦建築会』を代表し祝辞と共に、『芝浦建築会』として学部卒業生を対象に成績順位に関係なく、幅広く学び努力した「最多単位取得者」上位3名に今後の活躍を期待し『芝浦建築会賞』を授与しました。2025年6月には就職座談会が交流棟の大講義室にて、学部3年生と院生1年生を対象に開催されました。卒業生がパネラーとなり仕事内容等の説明の後、質疑応答の時間が設けられました。私からは卒業することにより卒業生の会『芝浦建築会』に入会でき、このような先輩との交流の機会を得ることができることも含め挨拶をさせて頂きました。



芝浦建築会賞受賞者

2025年6月には豊洲キャンパス交流棟4階にて、芝浦建築会第4回通常総会及び校友会芝浦建築会支部総会を開催しました。議長は百瀬副会長、議事録記録人は宮谷幹事、議事録署名人は川口副会長、浅見幹事を選任し、議事は進められ、全ての議案に賛成を頂き、総会を終えることが出来ました。大学からの来賓丁龍鎮（ちよん よんじん）理事と校友会からの来賓小宮山校友会副会長にご祝辞を頂き、記念講演はシステム学部准教授水谷晃啓先生に『建築デジタルデザインについて』をテーマに講演をして頂きました。その後交流棟2階カフェテリアに移動し、約1時間半の短い時間でしたが和やかに懇親会を開催することができました。



『芝浦建築会』は、在学生に対しては励みとなる支援活動を行い、卒業生に対しては先輩後輩の交流を通し、卒業後の拠り所を目指して行きたいと思っています。来年度の『芝浦建築会』通常総会は6月20日（土）に予定しています。友人知人にもお声掛けして頂き、楽しい時間を共に過ごして頂きたいと思っています。これからも会員の皆さんの温かいご支援とご協力宜しくお願い申し上げます。

【芝浦建築会会長】

## 理事長 寄稿

### 芝浦建築会 会報 『第4号』に寄せて



鈴木 健夫（すずみ たけお）

1970年 建築学科卒

新しい芝浦建築会の会報『第4号』の発行おめでとうございます。  
私は1970年建築学科の卒業です。仕事の関係で関西勤務が長く1979年から関西在住です。しかし転勤のため2000年からは東京で単身で仕事をしてきました。私は関西時代から校友会活動を手伝ってきました。創立70周年記念フォーラムを大阪で開催したことも良い思い出です。東京でも校友会に誘われ本部の仕事を手伝って副会長、会長を務めてきました。2019年に当時の大学理事長の五十嵐さん（1964年建築学科卒）が急逝され後任に推薦され理事長を務めることになりました。

理事長を務め5年目を迎えましたが、私は創立者有元史郎先生が目指した『社会に学び社会に貢献する技術者の育成』の目的で作った学校が土木学科・建築学科でのスタートであったのを確認し、その歴史ある学科を更に発展させたいと思っています。私は学生には刺激が必要だと思っています。特に建築の学生にはインスピレーションが必要だと思います。

私は以前一緒に仕事をしたスペインの建築家リカルド・ボフィルさんが亡くなったニュースを見て素晴らしい建築家だけど日本ではあまり認知されて無いなと思い学生達のためにリカルド・ボフィル展を大学で開催することにしました。ボフィルさんの日本の窓口である谷口さんをお願いをして設計図等を展示しました。大変好評でしたので、翌年は伊東豊雄さんの展示会と講演会を開催しました。日本国内で作品資料を展示する場所が無いためカナダの建築センター（CCA）に寄贈するとの話を聞き寄贈する前に本学で展示会を開催しました。学外者含め沢山の方が来館されました。

昨年は能登の災害支援活動に本学の学生と共に取り組んでいる坂茂さん（本学特別招聘教授）の展示会と講演会を開催しました。

今年は第4回目ですが大阪関西万博大屋根リングで話題の藤本壮介さんにしましたが、私は万博ではなく太宰府天満宮仮殿にフォーカスしました。昨年ニュースで仮殿を見て衝撃を受け現地に見にいき、藤本さんの展示会で計画から完成までの何百の設計プロセス図面を見て、これを学生に見せたいと思ったからです。

（創立者有元史郎先生は菅原道真公の末裔であることが判明しています）

10月1日に藤本さんと太宰府天満宮の西高辻宮司さんに来校頂き講演会を開催しました。550人が入る会場は一杯で映像配信のシアターホールも満員の盛況でした。終わっても藤本さんと話をしサインをもらう学生で溢れていました。

やはり日常の授業とは別に学生に刺激やインスピレーションを与える必要があるなと思いました。今後とも内外の建築家展を続けていこうと思います。

皆様のご協力を宜しくお願いいたします。

【学校法人芝浦工業大学理事長】

## 校友会 寄稿

### 「芝浦建築会 会報 （第4号）」に寄せて



加藤 善次郎（かとう ぜんじろう）

1980年 工学部機械工学科卒

芝浦建築会の皆様、ご家族の皆様におかれましては如何お過ごしでしょうか。日頃より、校友会活動に並々ならぬご支援を賜り改めて御礼申し上げます。

校友会は、建築学部創設以来、旧建築学科、旧建築工学科の両卒業生を中心とした卒業生の会の設立を切に願っておりました。功刀会長はじめ多くの先輩方のご努力により2021年12月に「芝浦建築会」を設立、2022年12月校友会支部として船出を切って頂きました。改めて御礼を申し上げます。

校友会として芝浦建築会にお願い事がございます。昨年も寄稿文に記載させていただきましたが、校友会の支部は、地域支部・海外支部・職域支部・同好支部の計98支部で構成されています。

このうち、建設会社を中心とした職域支部の多くが現在活動を休止しており、いわゆる「休眠支部」となっているのが現状です。

校友会では、2027年に迎える本学創立100周年に向けて、支部の活性化を重要な取り組みの一つと位置づけ、組織委員会を中心に全支部の総点検を進めております。その中で、休眠支部の統廃合や廃止についても検討していく予定です。

そうした中で、建設会社を中心とした休眠職域支部に在籍している校友の皆様を受け入れ、交流やつながりの場として機能していただける支部が必要とされています。貴支部には、そうした「校友の拠り所」としての役割をぜひ担っていただきたく、お願い申し上げます。

なお、具体的なお相談については、本村組織委員長よりすでにお話が届いているかと存じます。

何卒、ご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

また、12月11日から13日まで豊洲キャンパスで芝浦建築会の卒業生による芝浦建築会のイベントを計画されているとのこと、ご盛況をお祈りするとともに是非お伺いしたいと思っています。

そして、来年の全国総会・懇親会は、大宮キャンパスに来年4月にオープンする新校舎のO-CAMP2027にて6月13日（土）に開催する予定です。少し足をお運び頂きますが、大宮キャンパスも見違えるような変貌を遂げています。是非、予定を組んで頂きご来場くださるようお願い申し上げます。再会を楽しみにしております。

2027年創立100周年の全国総会、懇親会は、1,000人規模の会を目指し、皆様方には絶大なるご支援、ご協力をお願いする次第です。

最後に芝浦建築会の皆様、ご家族の皆様のご繁栄、ご健勝を心からご祈念申し上げます。

【芝浦工業大学校友会会長】

## 卒業生の輪

### 元初を考える

武井 良祐 (たけいりょうすけ)

2011年 工学部 建築学科卒 (原田真宏研究室)



現在私は東京と大阪の2拠点で建築設計事務所の共同代表を務めています。今回は最近考えていた事について書きたいと思います。

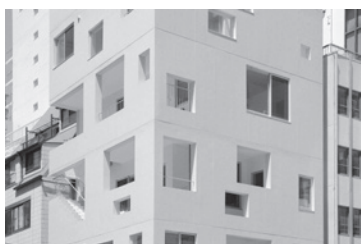
「私は元初を愛する」これはルイス・カーンの有名な言葉で、建築の元初とは何か?そもそも建築とは何か?都市や風景や生活とは何か?といった様々な根源を考える上でとても好きな言葉の一つです。

元初とは物事の最初に現れるのではなく、事態が進展していくに従ってその本当の姿が現れる、つまり出来事が終わる時によく現れる、といった意味です。建築の設計をしていると、設計中にあれこれ考えていた事が建築空間として出来上がりそこに人が入り、活動が生まれた時に、自分の目指していた事はこーゆー事だったのか、と気づく事があります。私にとってその瞬間がこのプロジェクトにとっての元初、根源的な出来事なのかも、と思います。

元初という事で他に思うことは、大学での学びについてです。私の場合は所属研究室の原田真宏先生からの影響はとても大きくて、大学院は別の大学に行ったのですが、私の建築設計の根源的な中心には原田さんからの影響が大きく残っていると思います。また、学部2年生や3年生の時に課題で悩んでいたテーマを今でも考える事があったりと、建築を学び始めた大学教育の影響というのは確実にあって、最初に学ぶ環境というのは後々の自分にこうも影響を及ぼすのかと驚きます。

「学ぶ」という行為はとても素晴らしい事だなと感じます。建築を始めた頃のワクワクや自分の興味ある事を色々試してみても、成功したり失敗して学ぶ、こういった最初の感動や建築をつくる喜びが現在も続いて建築設計を持続的にやっつけているのだと思います。

またこの興味の持続には「学びの連鎖」というものがあると思います。自分の考えている事を友人や先生に話をし、どこかで発表したり発表を聞いたり、本を読んだり、様々な物事との学びの連鎖があるからこそ、持続が可能だと感じます。今後もこういった学びの連鎖を自分自身続けられる様に、またこれからの新しい世代にも少しでも感じてもらえたらと思います、この文章の締めとします。



【株式会社OSTR 共同代表 / 熊本大学 准教授】

### 卒運がいいなあ

佐藤 晋平 (さとうしんぺい)

2011年 工学部 建築学科卒 (原田真宏研究室)

2013年 理工学研究科 建設工学専攻修了

(原田真宏研究室)



この場でいうことではないかもしれないが、僕は稀に見る運のいい人間だと思う。

深夜ふとイカゲーム2を見ながら、

おれは借金なくてラッキーだなあ

と一人呟くほどには運がいい。

莫大なローンを抱えていることは深夜だけは忘れてもいいらしい。

そう言えばここぞという時のじゃんけんで負けたことがない。

その昔CMで一世風靡した女性タレントが学園祭に来た時、数百人の中からじゃんけん大会を勝ち抜き、見事DVDと握手券をゲットしたことがあった。今も仕事部屋の本棚の一番上の“ショーシャンクの空に”と“プラダを着た悪魔”の間に挟んである。名作が並ぶ本棚は気持ちがいい。

今日は子供を幼稚園に送る時に信号で一度も止まらなかった。ビンゴで商品をもらわなかった記憶がない。と、都合よく記憶を改竄するほどには自分のことを運がいいと思いついでいる。

最近大学の同期と飲んだ時、彼が自分のことを運がない星の下に生まれた、と言っていて驚いた。そんな人間がいるのかと。しかも同期に。聞けば彼は最近会社の草野球で前歯が折れたらしい。平凡なサードフライを捕ろうとしたら、ピッチャーがジダンよろしく頭から飛び込んできたと。血の海と化したサードベースに駆け寄ってきたショートが、まさにレッドカードや、と言ったとか言わなかったとか。兎にも角にもどうやらコイツより運がいいのは間違いなさそうだ。

今、結婚し二児の父であることも、自分で設計した自邸に住んでいることも、たまにゾットする。トゥルーマン・ショーかと疑いたくなるほどに人生がうまくいき過ぎている。本当に運が良くてよかった。いや運が良かったと言い切れる選択をしてこられてよかった。

中3の夏、実家を出て、札幌の男子高の進学校に行くか、札幌の共学のスポーツ校に行くか悩んだ時、進学校を選択した自分を褒めてあげたい。卒業して2年後に共学になったと聞いた時は一瞬サイヤ人になれた。

高2の冬、将来に悩み13歳のハローワークを読んで“建築家”と“古着屋”の2択が残った時、建築家を選択したあの日の自分を褒めてあげたい。

その後しっかりと受験に失敗し、一浪してから入学したからこそ、優秀な同期と出会えた。彼らと出会わなければ僕は墮落した人生を送っていたに違いない。あの時腐らず勉強に励んでいた自分に感謝したい。切磋琢磨しながら建築に本気になれたのはこの同期たちがいたおかげだ。こればかりは本当に運がよかった。

大学院に入り運よくコンペに通り出したことに味をしめて、アトリエに行く就職先も決めずに卒業旅行に行き、帰って来てから3月にインターン先を決めて、あれよあれよと5月には採用が決まったこともラッキーだった。

たまたま原田先生がクマジム卒だったこと、たまたま研究室のOBが1人在籍していたこと、たまたま日本人スタッフを多めに採る年だったこと、たまたまインターンで付いた先輩が何も仕事ができない僕のことをとても可愛がってくれて推してくれたこと、いろんな事が重なって採用が決まったと思う。ちなみに後にこの先輩から誘われて現職に転職することになる。なんて出会いだ。それにしても運がいい。

入社してすぐに国内の着工したばかりの案件に入れてもらった。聞けば10年前にプロポーザルで勝ったプロジェクトが紆余曲折ありやっと着工したらいい。ラッキーすぎる。

無事2年かけて竣工を迎えた後、朝イチの上司からの電話を取ってしまった。(後に先輩に聞いた話では、見聞色を極めていた先輩はあえて電話に出なかったらしく、自分は2番手だったらしい)この電話によって新規のふわふわプロジェクトにアサインされてしまった時には流石にいいよ運も尽きたかなと思った。

とはいえふわふわを乗りこなして、なんだかんだ楽しんでいたところ、前述していた先輩から転職のお誘いが飛び込んできた。今思えば悩んでるフリをしながらもなんとなく最初から決めていたのだと思う。どうやらせっかちで心配性な僕の性格はいつもこの手の選択を間違わない。間違っていないと思いついでることができる、恥ずかしいくらい高い自己肯定感を持っている。

その後無事ふわふわプロジェクトをサクサクふわふわくらいにまでは美味しく形作ったところで退社、現職につながる。

生まれた町の人口の3倍は社員がいるようなIT企業は、文字通り街のようだった。

外国人も多い。ほぼ知らない人しかいない。いちいちカタカナが多い。会話も名前も。

建築業界とは全く異なる環境とスピード感には割とすぐ慣れた。IT企業でインハウスのスペースデザイナーというなかなか珍しい体験をしている自負がある。サービスブランディング、オフィス構築、イベントブランディング、ファシリテーション、新サービス、生成AI、上場、合併、、、もうお腹いっぱいですと思っても毎年毎月のように何かが変わっていく。

飽き性な自分にとって、とても刺激的な毎日を送っている。建築業界を少し外から見ているのもなかなか興味深い。“あちら”も“こちら”も、両方を知っているからこそ分かることがあると思う。それこそトゥルーマン・ショーのように。

そう言えば少し前に役職がついたことから社内でも自己紹介をする機会が増えたので、建築家を名乗るようにしてみた。意外と反応は悪くない。むしろやっている事が伝わって分かりやすいです、と“あちら”ではとても分かりにくい経歴の僕は少し戸惑う。でもまあこんな建築家が一人くらいいてもいいよな、とも思っている。

しかしまあ僕の人生は不思議なほど運が尽きない。それどころかドバドバと湧き出てくる。黙っているだけで、こんな“卒業生の輪”なるステキ企画を紹介してもらい、こんな訳のわからない長文を寄稿できるのだから。

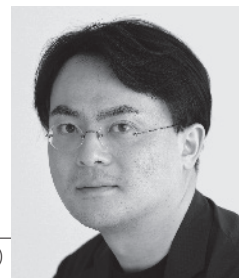
次はどんな選択があり、どんなラッキーが待っているのか、これからも運がいいと思いついでいこうと思う。

【LINEヤフー株式会社】

## '在る'ということを否定しない

金子 知弘 (かねこ ともひろ)

2011年 工学部 建築学科卒 (原田真宏研究室)



私は在学時、原田先生の研究室に所属しており、卒業後、アトリエ工系設計事務所得意匠設計者として働いた後、今は組織設計事務所でシミュレーションや環境実測等を通じた環境コンサルティングの仕事をしています。

そんなルートがあるのか？(意外とあったw)という話もあるのですが、それは置いておいて、今回は今いる場所と大学時代の思い出を繋いでみたいと思います。

以下、曖昧な記憶によるイイカゲンな思い出で、もしかしたら先生はそんなことは言ってない(もしくは、誤解している)とおっしゃられるかもしれませんが、ご容赦下さい。

あれは確か卒業設計のゼミか何かの時だったと思うのですが、誰かが美しい大自然の風景を壊さないよう、建築を全て地下に埋め

て、存在を消して、ウンヌンカンヌン~という計画を説明し、原田先生から「'在る'ということを否定している」と嗜められていました。

その言葉は印象的で、今でもふとした時に、ミニ原田先生が頭の中に現れては、「'在る'ということを否定していないか？」と訊ねてきます。

美しい自然の風景を壊したくないからと、建築を埋めて、姿を隠したとしても、そこから発生する大量の残土や、その建築を作る・使うエネルギーはどうしても必要で、その建築を「無い」ことにはできないし、それよりも美しい自然と一緒に「在る」美しい建築を考えることはできないのか？という主旨だったと思います。

美しい自然に比べたら、建築など醜くて、恥ずかしいものなので、隠してしまいたいと卑下するのではなくて、自然をもっと良くする存在として、自然にも堂々と胸を張って建築を建てられないのか？という問いかけだったのかと思います。

一方で、地下建築案を計画していた誰かのように、鳥の巣や、ビーバーのロッジは良いもので、人間の建築は悪いものだと思ってしまうことは、自分自身にもないこともなく、その原因は何なのだろうか？と考えていました。自分が何となく思い浮かべる建築と、自然とを並べて置いてみた時、どうもじっくりこない、違和感は何なのだろうか？と…。当時は、これといった答えは見つからず、そのままになっていたのですが、今、環境コンサルティングの仕事しながら思う、その違和感の原因は、建築が周りの自然や環境に与える悪い影響/良い影響のバランス、あるいは自然から貰う量/自然に与える量が釣り合っておらず、建築が貰う量が圧倒的に多いことによる「不平等感」だったのではないかと考えています。

今では当たり前になったカーボンニュートラルや、ZEB、ZEHという言葉。あるいは、ZWB (Zero Water Building)、PES (payment for environmental service : 生態系サービスへの支払い) 等の言葉も、要するに建築(人間)と環境の貰う/与えるものの収支を0にして不平等をなくしましょう(それが循環をつくり、ひいては人間の為になる)という話かと思えます。(ちなみに、「環境とは自分(主体)以外全て」が所属していた建築研究会の衣袋先生のログセでした。)

風景で言えば、建築が風景を悪化させる量と、風景を良くする量が釣り合っている(もしくは、良くする量が多い)状態にする方法はないのか？あるいは、風景は少し悪くなるけど、他の部分がこんなにも良いことがあって不平等じゃありませんと言えないか？ということかと思えます。(何を良い・悪いとするかという話はあるかもしれませんが。)

建築が'在る'ということを否定していないか？

それが大自然の中であろうと、都市の中であろうと、自然・環境に対して、胸を張って立(建)っている建築。

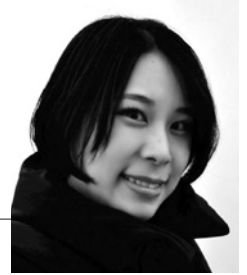
'在る'ということを否定しない建築が、どんな姿をしているか。いつか見られると良いなと思えます。

【株式会社日建設計(環境デザイン室)】

## 設備設計者として

高須 眸(たかす ひとみ)

2018年 理工学研究科 建設工学専攻修了  
(秋元研究室)



機械設備設計職に就いて、今年で8年目になります。

自分がこの仕事に進み、歩んできたこれまでに思い返し、設備設計者としてのこれからを書きます。

自分の将来があまり想像できていなかった学部3年のある時、建築環境工学の授業を契機に建築設備の分野に興味を引かれました。熱・空気・光・音など、それまで強く意識していなかった自分の周りに当然としてあるものが人にどう影響を与えるのか、より知りたいと思ったのがきっかけでした。

当時環境システム学科に在籍していましたが、他学科であった建築工学科の秋元研究室で卒業論文を書き、同研究室で建築環境や建築設備の研究に取り組んで修士論文として纏めました。

就職活動では研究室で学んだ「我慢をしない省エネと快適さの両立」を多くの方が利用する建物で実現したいと考え、組織設計事務所の機械設備設計に進む決意をしました。

最初の職場では事務所、商業施設、集合住宅など、建物用途に関わらず担当することが多く、基本設計から工事監理まで一連の業務を行っていました。中でも、設備負荷の高くなりがちな商業施設の用途でZEB Ready 認証を取得した設計に携われたことは、私の中で大切な経験の一つです。建物の利用実態に応じた機器容量の適正化を行うことがいかに重要か業務を通じて感じる事ができました。

その一方で、他にも省エネ建築の提案を行う機会がありましたが、当時「省エネ=我慢≠快適」のイメージが一般的に根強く残っていたことに衝撃を受け、この認識を払拭していくのも設計者としての役目であると強く感じたことを覚えています。

昨年同業の組織設計事務所に転職し、現在はこれまで経験のなかった公共建築を担当しています。社会的責任の大きい建物の設計に携わる中、事業主の要望に即した計画を検討すると共に、利用者の視点に立った「快適性と省エネルギー性の両立した空間」を目指して日々取り組んでいます。

利用者に寄り添う空間の理想と限界との間で葛藤を感じることも少なくありませんが、その中で最善の選択は何か模索し続けることこそが、私たちがいる理由だと思います。たとえそこに困難を感じたとしても、前向きに強く進んでいける設計者でありたいと思っています。

最後に、現在までを振り返り本当に思うのは、どこへおいても出会う人に恵まれているということ。

これからも関わる全ての人への感謝を忘れずに、社会に貢献できるよう今後も設備設計者として日々精進していきます。

【株式会社日建設計】

## アイデンティティ

小野 真徳 (おの まさのり)

2015年 工学部建築工学科卒 (西沢研究室)

2017年 理工学研究科 建設工学専攻修了  
(赤堀研究室)



先日仕事で豊洲を訪れる機会があり、「受験したあの日も工事中だったな」と想起しつつ、ハルセロナの教会如く未だ完成しない駅を抜けると、都市湾岸部特有の生ぬるい潮風が肌にまとわり、まるで故郷に帰ったかのような感覚を覚えました。

大学院の時代も合わせて合計4年間、整然とグリッド化された街区を最短ルートで通学しながら、数少ない友人たちと同じ屋根の下で寝食を共にした記憶と経験は、間違いなく今の私の血肉となり、DNAの奥底に刻まれています。

ちなみに建築研究会というサークルに所属し、大宮キャンパスで過ごした2年間も大変色濃い思い出なのですが、残念ながら今回は割愛することとします。

私は、品川の戸越銀座という街の小さな町工場で生まれました。小さい頃から油の匂いと機械の音が嫌い、家業を継ぐことはないと心に決めていました。しかしながら心のどこかでモノづくりに惹かれていたようで、建築を学ぶ道を選びました。学部時代は、八束先生・西沢先生から都市論と建築論を同時に学ぶことができ、大変幸運な学生だったと思います。私の同期は意匠設計志望の学生が多く、成績が悪かった私は、半ば自暴自棄になりながら第二希望の研究室に進学することとなります。結果的にこの運命は私にとって素晴らしい選択だったと感じています。

大学院時代に指導いただいた赤堀先生はとても寡黙でした。エスキスではつかみどころがない先生を説得させるべく、つつい多弁になってしまい、「小野君はよくしゃべるなあ」とニコッとした笑顔で揶揄されたことを覚えています。そんな飄々と立ち振る舞う先生でしたが、ある時「自分を安売りするな」という言葉を鋭くお話しされました。どんなときも設計者としての存在価値(アイデンティティ)を大事にしてください、という意味だと理解しています。普段あまり否定を強めて断言をされないイメージがあったので、あの時の情景は今でも私の脳裏に刻まれています。

大学院終了後、ゼネコン設計部で超高層ビルの担当となり、右も左もわからぬまま現場に投入され、朝から晩まで施工図と睨みあう毎日。蓄積された疲労は深夜のラーメンとアルコールによって浄化され、体重に比例する形で設計者としての素養が磨かれていったと思います。家に帰ると家族全員寝静まっており、嫌いだった油の匂いと機械の音はどこか遠い世界にいつってしまったようでした。

30歳になる手前に、ふと「私は何のために生まれてきたのか」を思量することになります。きっかけは覚えていませんが、病んでいたわけでも何かに影響されたわけでもなく、ただの直観でした。満員電車で揺れながら、私は何者で私を構成しているものはなんなのだろうと考え、「意匠設計者としての経験値」と同じ高さに「家業の後継者」という要素が浮かんでいました。次第に、世の中に私しかできない役割があるならば挑戦してみたいと思う

気持ちが大きくなり、気付いた時には父親に継ぐ意思を伝えていました。

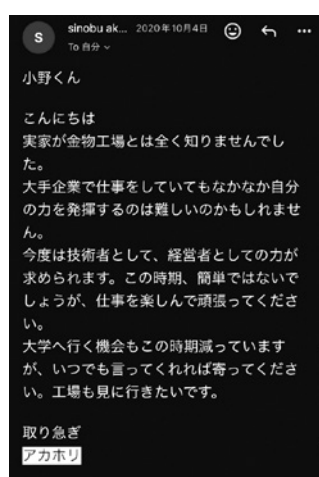
今では設計者ではなく経営者として、父と、そして23名の従業員と一緒に宇宙分野で使用する研究用ロボットを開発しています。いつの間にか嫌いだった油の匂いと機械の音は、私の日常に溶け込んでいました。

「自分を安売りするな」

赤堀先生が逝去される1年前に、この言葉の本当の意味を知りたくなり、先生にメールをしたことがあります。

建築から離れ、家業を継いだと伝えたとこ、ぜひ工場を見たいと返信があったのが私と先生の最期でした。

工場を案内できなかったことを後悔していますが、きっと先生はニコッと笑いながら言葉の意味を教えてくれないでしょう。これから何年もかけて私自身が成長し、気付く必要があると思っています。

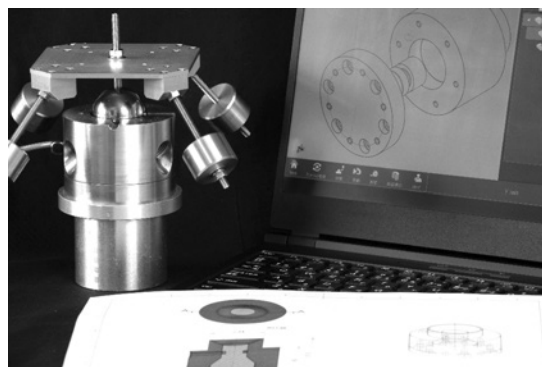


小野くん

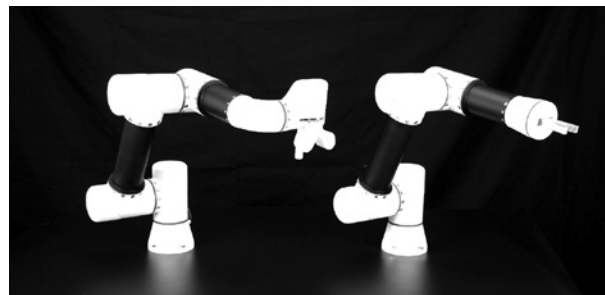
こんにちは  
実家が金物工場とは全く知りませんでした。  
大手企業で仕事をしていてもなかなか自分の力を発揮するのは難しいのかもしれない。  
今度は技術者として、経営者としての力が求められます。この時期、簡単ではないでしょうが、仕事を楽しく頑張ってください。  
大学へ行く機会もこの時期減っていますが、いつでも言ってくれば寄ってください。工場も見に行きたいです。

取り急ぎ  
アカホリ

赤堀先生との最期のメール



実験装置を設計から部品加工・組立・動作確認までワンストップで行います



慶應義塾大学と共同で開発したロボットアーム「ハプティクスプラットフォーム」  
【株式会社小野電機製作所】

## 好きなことを見つけて それを避けてうろうろする



堀木 俊 (ほりきしゅん)

2009年 建築学科卒 (堀越研究室)

2012年 建築工学専攻 (八束研究室)

今は、地元でもない富山県で、建築ではなく製薬会社で働いています。

転勤族だった私にとって、コロナ移住というものは、一つの小さな転機でしかなかったですが

何か、今までの当然と距離が出来、人生がまた違った方向に進んだことも事実です。

製薬会社の中では、主に経営に関わる新規事業の立ち上げ、中山間の立山町で進めている多義のヘルスケアを実践する村づくりに参画しています。

同時に個人事業としてMAPAの屋号で、北陸地方を中心とした建物等の開発案件の監修を行っています。

8年間お世話になった先生方・先輩方・後輩方・他学科の友達・学生課の方々、すべての大学関係者の皆様の顔が思い浮かびます。かけたご迷惑に対して、全員に感謝を伝えたいですが、この文章では1つの言葉だけ取り出して在学時と現在に補助線を引いてみたいと思います。

僕にとって、大好きなこととそうでないことを両軸で進めていくことが大事だと気付けたのは、

担当教員の八束先生にいただいた、「好きなことは言われなくてもやれるので、嫌いなことや興味のないことを勉強するのが勉強だよ」

という金言に因るところが大きいです。

大学院に進んだ2009年、やりたいと思う研究をその年はやらないうと知ってごねてしまった僕に、先生がかけてくれたこの言葉。当初は全く納得がいかず嫌々メタボリズム史の中の黒川紀章研究をしていました。

黒川さんが亡くなったのが僕の誕生日だったので、縁を感じていたものの、最新のキラキラした建築に憧れていた僕は、ただ、言われるがまま見様見真似で資料をかき集め・読み込み、後輩達と議論を進めました。調べれば調べるほど見えてくる仮説とその鮮やかな展開に没頭しながら、展覧会へのアウトプットとしてドラフト資料をまとめるなかで、とても良い黒川通史が出来上がっていく様子に興奮したのを今でも覚えています。

この時の心地よい達成感、今までに味わったことのないもので、好きなことでなかったものに向き合うことで、その時に自分は好きなことに向き合うと見えなくなるものがとても大きいことに気づきました。

(単眼的でなく、複眼的に在ること それが当て所もない修士論文にもつながった気がします。)

思い返すと、転校続きだった幼少期には、好きな行事の前に転校になり

中学受験の際も志望校入試直前にインフルエンザにかかり、何か

自分が望むものはそもそも手元にはやってこなかったが放り出された、希望ではない環境で最善を尽くすことで得た、全国津々浦々で見た景色や、不意に参加した部活で日本一になる経験など

結果、得難いものを得ていい方向に進んできたのではと思えた。

(好きではないことに飛び込み、好きなことは好きなこととして大切に想うこと。)

その後、スイスへの留学を決断できたのも、自分はいれないと思っていた隈事務所で13年働けたのも

在学中に突き落とされた、好きでもないことの崖の底でも、自分なりに頑張れば見たことのない世界が広がって、かえって楽しいという

先生の金言から生まれた体験がなければ起りえなかったと今となっては思います。

八束先生は、卒業する際にこうも言いました。

堀木君のような繊細な人間が、建築の世界で生きていけるか 僕は心配です。

僕にとっての八束はじめ先生という人は、あまりにも天邪鬼で、僕のスイッチの入れ方の分かった方だと、本当に感心しました。最初と最後の金言によって無事に、ここまで僕なりの形で大好きな建築を続けられています。

好きなものをみると盲目になる僕にとって、好きなことをみつけ、それを避けてうろうろしながら、

ちょっと離れたところから好きなことを見る。 そんな道が大学のころから続いています。

1年の留年と1年の留学と寄り道をしたことで、学年を越えた学友が出来たことも、今となっては貴重な財産です。

【株式会社MAE/ MAPA】

## 「建築」してますか



石黒 光 (いしぐろ ひかる)

1996年 建築学科卒 (小柳津研究室)

50になって大した趣味もなく、男性の健康寿命は72歳らしい。残りの人生、何をしたいのか、何ができるのか…… 卒業後、ハウスメーカーに就職したが、営業・設計・工事を経験し、ほどなく転職、そして公務員になった。まあ、何となく浅く広くやってきたおかげで、意匠以外にも多少なりとも構造計算をやったり、エレベーターの審査・検査をしたり、また景観法を扱う部署では屋外広告物の許認可や色彩、やりたかったまちづくりに携わり、福祉部局では高齢社会における介護制度等を知ることができた。特にこの分野をというのではないが、もう一度「建築」をやりたいという思いで、20年来、再び芝浦建築会に参加するようになり、また大学のいろいろな校友会支部に顔を出すようになって、今のところは多少なりとも建築に関わり、まあまあ楽しくやっています。

少し大学時代に学んだ自分なりの建築形態論の話をする、例

えば、ただの平面に、ステージ状の突出したスペースや、へこんだ窪地ができると、そこに空間が生まれる。その凹凸が天井にできれば同じように空間ができ、また垂直方向や、さまざまな大きさ・位置・高さ、連続性、さらには斜めだったり、曲線・球形だったり、どんどん空間が複雑化していく。加えて、材料による質感や透明性、光や影等によりさまざまな空間構成が発生する。そんな空間の中で人はどう動くのか。建物の用途や機能性、遊び心、それを創造していくのは、建築家(や)にしかできないことなのかなって思っています。都市空間もまたしかりです。

人と人をつなげる場の演出。これは建築でなくても出来るかも知れないが、学生時代からずっと大切にしてきたこの想いで、これからも自分なりの建築と関わっていければと思っています。

【千葉県庁】

## 頼り頼り関係で

徳田 直之(とくだ なおゆき)

2009年 建築学科卒(堀越英嗣研究室)



千葉県我孫子市で建築設計事務所の代表をしています。

卒業後は久米設計に就職し、アトリエ系事務所のニジャーキータツ、オーノ JAPAN を経て2018年に自身の設計事務所を設立しました。今では豊洲校舎で学部二年生のCAD・CG演習の授業で非常勤講師をさせてもらっており、後輩との交流も増え、生徒にアルバイトに来て頂くこともあります。

芝浦建築会は今年で3年目に突入り、今年から事務局長に就任させて頂き、交流はもっと深くなり、周りにご迷惑をお掛けしないように気を引き締めて参りたいと思っています。

まだ日は浅いですが、芝浦建築会の交流を通しての変化といえは、自分の父親と同じくらいの年齢やそれ以上の方々との交流を持つ機会が増え、我孫子で生活しているだけでは会えない人と沢山の接点を持つことができました。建築の仕事はとてつもなく広いですが、芝浦のOBの裾野もとてつもなく広いです。日本各地にいてそれぞれの領域のプロフェッショナルでいて、話すたびにこんな卒業生がいるのだなとびっくりさせられます。周りの先輩後輩でも頑張っている人の話は自然に耳に入って来ますが、芝浦建築会では普段見聞きできない世代を越えた話を聞くことができます。

ここでの私にとっての財産として一番に感じるのが、相談できる人が増えたことでした。実際に相談することは多くはないですが、電話一本で話せる人がいる、と思えるだけでもとても心強いのです。仕事をしていると、ましてや、独立してまだ自分の自分にとっては、人の繋がりや心が支えられることも多く、会の皆様には勝手に感謝をしています。

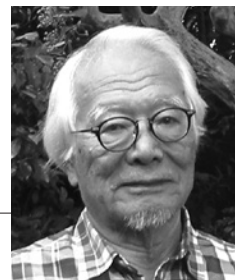
私も相談できると頼もしいと思われる人間になりたいな、いや、なります。設計をもっとがんばってなります。これからも頼り頼り関係で、どうかよろしくお願ひします。

【トクダクション一級建築士事務所 代表】

## —自由な人間でありたい—

辻垣 正彦(つじがき まさひこ)

1964年 建築学科卒



私は昭和35年の入学で1960年日米安全保障条約改定の年で、日本中が揺れていました。入学して1か月も経たない1年生の私も新橋駅集合、ジグザグ行進しながら国会議事堂へデモ行進をしました。その年は、東大の学生であった樺美智子さんが亡くなる程の激しい闘争でした。この事は社会と自分との触れ合いを実感させてくれ、政治に対する自己表現を学ばせてくれました。

本来大学は、真理を追究し永遠のテーマである“人間とは何ぞや”という存在意識を教師・学生が深掘りする場ではないでしょうか。

就職支援の強化は大切な目標の1つですが、企業におもねる必要はありません。

学生1人1人が多様な価値観を持ち社会に於いて自立する、大学では、心の中に真理の力を蓄え「自由」であるためのエネルギーを蓄える場ではないでしょうか。

大企業は株式会社組織であり、利益を株主に還元する事が第1目的となるのですから、個人の意志が尊重されることは根本的にありません。自分の意志に反する環境をはねのける力が比要になります。どんな環境でも「人は自由に生きる環境を創るために存在する事」をいつも考えて居たいものです。

私は1964年、自ら選んで柳建築設計事務所に入所するため、当時の嶺岸泰夫助教授に推薦文を頂き、運よく採用されました。3年半修行し、1967年独立し、58年間、組織としては、個人で辻垣建築設計事務所を続けています。何かあったら責任は全て辻垣正彦が負うという覚悟で。勿論、己の力だけでは、自立は出来ません。大勢の人々のお陰であることは勿論です。

学生時代、小柳津醇一教授(同窓)と共に3年の夏休みの1か月間、嶺岸泰夫教授の設計した日立ランプ小田原工場に建設中の建設現場に通って現場体験させて頂いたことはすばらしい学びであったと今なお感謝しております。

2年になって「センセーションゼミ」を三浦元秀教授を顧問に建築学科のOBと後輩の皆さんと立ち上げました。OBと現役に依る企画展示などをし、外部から原広司氏などをお招きしたことも記憶に残っております。

卒業してから、28年経った1992年、同窓、小柳津醇一氏が教授になり、それを記念して、その年に「円座」を組織し、会長を10年間務めさせて頂きました。OBの研究、体験報告、講師、教授の最新研究報告を通じ、一同に集い、生き生きとしたコミュニケーションの場が持続できました。90人近くの会員が集まり10年間続きました。

変化激しい世界にあって「芝浦建築会」が創造的な場を提供することを願っています。

【辻垣建築設計事務所】

## 芝浦建築会の更なる発展に向けて

百瀬 和浩 (ももせ かずひろ)

1985年 建築工学科卒



芝浦建築会は芝浦工業大学の建築学部創設にともない、建築学科、建築工学科等の卒業生の会をひとつにまとめ、芝浦で建築を学んだすべての卒業生の会として2021年12月に設立総会が開かれスタートしました。一昨年からは、芝浦工業大学を卒業された多様な分野で活躍されておられる同窓との交流を目的として校友会の仲間入りをしました。

私は卒業後建築設計事務所に25年ほど意匠担当として勤務したのちに地方自治体で建築や環境について取組み、現在は児童福祉施設を運営する会社の関連会社にて施設発注や社宅等の物件管理を行っています。

卒業して40年、芝浦工業大学で建築を学んだこと以上に、社会に出て交流した方々から得た知見がどれだけ大きかったかを痛感していますが、そうした自らの経験を同窓の皆さんに少しでも知っていただきたく芝浦建築会の活動を行っています。

一昨年度より【芝浦建築会賞】を卒業生に授与する取組を始めました。賞の対象者は在学中に最も単位を取得した卒業生です。これは、建築と言う学問分野が単なる工学技術の成果ではなく、芸術学、社会学、経済学など多様な分野から影響を受け成立するものであり、成績はともあれ何事にも積極的に興味を持った方々を表彰するユニークな賞です。

建築を創造する、建築を実際に造ると言う作業は、自らの知見をもとに新たなアイデアを自ら考え、試行錯誤する事が必要です。そのための素養を在学中に育んでいくことが重要です。

芝浦建築会の会員は、建築のみならず、様々な分野、職域で活動されています。キャリアアップや転職など悩んでおられる若い世代の卒業生の参加も大歓迎です。また、子育てや仕事もひと段落した卒業生の参加で若い世代を育ててください。キャリアや世代を超えて交流ができる場としての「芝浦建築会」をこれからも創ってまいります。 【株式会社SHエステート 取締役】



## 教員紹介

### 着任のご挨拶

本多 久美子 (ほんだ くみこ)

建築学部建築学科准教授



2025年より建築学部准教授として着任いたしました本多久美子と申します。歴史ある芝浦工業大学に着任できたことを大変光栄に思っております。会報への寄稿の機会をいただき、心より感謝申し上げます。

私は、京都大学大学院修了後、福井大学工学部建築・都市環境工学科に着任し、人間行動と空間認知に基づく建築・都市空間のデザインを専門に活動をして参りました。マルチエージェントシステムによる人流シミュレーションにも力を入れており、空間と人の関係性を空間認知に主眼を当てながら、定量的に捉える手法の開発に取り組んできました。そしてこの5年間は、日建設計総合研究所の次世代モビリティデザイングループにて、都市計画コンサルタントとして勤務しておりました。自治体や国に向けた提案業務を通じて、人流データをはじめとした様々なデータに基づく建築空間や都市空間の価値の「見える化」や、モビリティを軸としたまちづくりの支援業務等に取り組んできました。もともとはモビリティを専門としていたわけではなかったのですが、実は私の専門領域である人間行動や空間認知の分野と、モビリティ分野とは非常に密接な関係があることがわかり、ご縁あって次世代モビリティの研究グループに所属したことで、新たな視点と専門領域が広がりました。

建築や都市は、データで捉えられる合理的な側面と、人々の記憶や愛着といった情緒的な側面を併せ持ちます。この両方の視点を大切にしながら、実務で培った経験とアカデミアの世界を架橋しつつ、データに基づいた論理的な思考と、豊かな空間を構想するデザインの感性を両立できる人材の育成に微力ながら貢献できればと考えております。

未熟者ではございますが、諸先輩方から多くのことを学ばせていただきながら、職務に邁進したいと存じます。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

### 着任のご挨拶

小金井 真 (こがねい まこと)

建築学部建築学科特任教授



本年4月に建築学部建築学科に着任いたしました。何卒よろしくお願ひ申し上げます。歴史と伝統のある芝浦工業大学で働ける

機会をいただきましたことを大変嬉しく光栄に思っております。2年前までは山口大学工学部感性デザイン工学部に勤務しておりました。私の専門は建築環境工学・建築設備工学で、山口大学着任前に勤務しておりました空調の会社の技術研究所時代も含めてこれまで一貫して建築環境・建築設備分野における諸問題、特に室内熱環境、空気質、環境負荷低減に関する諸問題を扱ってまいりました。最近では太陽熱や地中熱などの再生可能エネルギーを活用した冷暖房システムや次世代型空調システムの研究開発に力を入れています。

会社で研究所に勤めていた時に2年間米国のバージニア工科大学 College of Architecture and Urban Studies において客員研究員として働く機会がございました。また山口大学時代には海外研修でゼミ学生と一緒に海外の大学（成功大学（台湾）、サンカルロス大学（フィリピン）等）を訪問して研究室交流を行ってまいりましたので、これらの経験を活かしながら貴大学において少しでもグローバル理工学人材育成のお役に立つことができると考えております。

芝浦工業大学では学生諸君と一緒に研究の楽しさ、面白さを味わいたいと考えております。学生たちが社会に出てからは自己教育の比重が大きくなりますので、自分で学ばずにはいられない衝動を学生たちの内部に植えつけるためのお手伝いが少しでもできればと考えております。

これからの時代を担う若い方々には、現代のように変化の大きい社会にあって、社会の在り様に翻弄されるのではなく、培ってきた科学的知識、社会貢献の志、他者に寄り添う自分自身の誠意を行動の源泉にしてほしいと願っています。

大学教師だった私の父は敬虔なクリスチャンで、工学教育の中に精神的な考え方も取り込んでおりました。私は以前より教師の理想像は父の中にあると考えており、少しでもその理想像に近づけるよう精進してまいりたいと考えております。趣味は旅行、テニス、古典落語の鑑賞、ピアノ曲鑑賞です。

これまでの経験を活かして努力してまいる所存です。ご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

## 退職のご挨拶

篠崎 道彦（しのぎき みちひこ）

建築学部建築学科教授



2025年3月に芝浦工業大学を定年退職しました。在職した34年余りの間に、大学には新しくシステム工学部、デザイン工学部、建築学部の3学部が設置され、たまたまそれらの動きの中あるいは近くに身を置いていた私は、それぞれの学部の新設年度から所属を移して学生の教育に関わることとなりました。3つの学部で、新しくも異なる特徴の教育を実践し、その成果を実感できたことはたいへん幸運でありました。研究室も大宮キャンパスから芝浦キャンパス、豊洲キャンパスへと移動しながら、素直な学生、心優しい同僚に恵まれ、難局も幾度かはあれど、ならばばおおむね穏やかに教員兼研究者生活を送ることができたと思っています。

私の本来の専門は都市デザインで、空間的な情報処理の技術を活用した取り組みを長年続けてきました。この10年ほどは東南

アジアの都市を主なフィールドとしており、例えばマレーシアのマラッカ、イポーでは都市景観の保全・整備、緑化のデザインを風・温熱環境の変化のCFD解析による検証と組み合わせながら進めるフレームワークを開発・提案し、なんとか道筋が開けてきました。インドネシアのバンドンでは、かつて Paris van Java と謳われた華麗な旧市街の街並みを再現し、VRを用いた没入型空間体験を提供して景観価値の再評価と地域価値向上につなげる取り組みを開始しました。現地大学との共同作業を含むこれらの研究の多くは2000年頃から継続的に研究室に在籍していた博士課程の学生、今では母校や国内外の大学の研究職に就いている卒業生皆さんの協力で支えられたものです。

退職の前後には、学部・修士の卒業生の皆さんとも再会する機会が数多くありました。久しぶりの昔話を懐かしみながら、文字通り多彩な分野で活躍するそれぞれの今をととも頼もしく感じる楽しい時間を過ごすことができました。卒業生の皆さんの益々のご活躍とともに、新たな卒業生を社会へ送り出す建築学部の教育がより一層充実されることを期待しています。

## 退職のご挨拶

横山 計三（よこやま けいぞう）

建築学部建築学科特任教授



本学では特任教授として3年間過ごしました。短い間でしたが、学生や教職員の皆さんと一緒に仕事ができ大変充実した時が過ごせました。

今年で大学教員生活も最後となりました。思い返せば、建築設備を対象に、企業で35年、大学で12年ほど過ごしたわけですが、企業では、施工管理、設計、海外業務、開発と技術系として一通りのことをやってきました。施工管理では、仕事がやりやすいような段取り、つまり工程管理を学び、安全作業についても気を付けるようになりました。そして海外勤務では、日本と海外の仕事の仕方の違いを学び、開発においては、ニーズとシーズの対応、事業化へのプレッシャーと戦ってきました。また、大学では研究、教育、その他とさまざまなことができ、いい人生だった気がします。

大学においては、これまでの経験を生かした教育として建築設備の実務と理論のつながり、建築設備の重要さ、面白さを知ってもらいたいたいと思い、授業の中にそう言った内容も盛り込んできました。しかし、決して十分ではなかったと反省しています。

本学での3年間は、秋元先生との研究室の共同運営ということで、なかなかいい経験をすることができました。通常、研究室は1人で運営するので人の意見や考えをゆっくり聞く機会が少ないこと、多くの学生と付き合うことができたことなどがあります。

今後は、「認定NPO法人 地球の友と歩む会」の活動にも力を入れてやって行きます。インドネシアの農村の生活向上支援を主にやっているわけですが、みなさんのご支援も期待しています。昨年9月には研究室の学生3人を含む総勢11名でインドネシア・スンバ島（バリ島の東方）へ行くことができました。学生たちと開発した水車式ポンプ3台の組み立て・試験を行い、その有効性を確認しました。また、民家の温湿度実測、簡易水質検査など多

くの成果を上げることができました。今年も本学の学生2名が参加しています。参加者にとって良い経験となったことと思います。

これからの時代、人はもっと長生きするといわれています。皆さんには、さらなるご活躍を期待しておりますが、いろいろなことに興味を持って楽しく過ごしてほしいと思います。3年間ありがとうございました。

【芝浦工業大学 SIT総合研究所 客員教授/  
認定NPO法人 地球の友と歩む会 理事長】

## 退職のご挨拶

佐藤 香寿実（さとう かずみ）

建築学部建築学科特任講師



2021年度から2024年度まで四年間、芝浦工業大学建築学部特任講師としてお世話になりました。いくつかの人文社会系の基礎教養科目を担当したほか、プロジェクトゼミや卒業研究を受け持ちました。

コロナ禍の只中に着任し、最初は慣れないハイブリッド授業に苦戦しながら、なんとか授業をこなす日々でした。一年生～四年生まで、建築学部にも工学部にも開かれている講義を受け持つのは、難しさもありましたがその分やりがいも感じられ、二年目以降はグループワークも取り入れつつ、主体的な学びに繋がるよう工夫しました。

とりわけ卒業研究などの少人数ゼミは、個人的に得た学びも多く、貴重な経験をさせていただきました。毎週のゼミのなかでの学生たちとの意見交換は楽しく、学生たちの成長が見て取れたときは大きな喜びを感じました。建築学が専門ではない私の研究室で、建築の学位をとるための卒業研究を進めていくことに対して、少なからず戸惑いもあったかと思いますが、学生たちは各々でテーマ・問いを設定し（最難関のステップでした）、インタビューや参与観察を用いつつ、研究に進進してくれました。

着任してから得た最も大きな気づきは、建築学という学問の幅広さ、すなわち、その懐の深さです。まちづくりや地域政策など、私の専門である地理学と隣接する分野も多く、手法においてもフィールドワークが重視される点は共通しています。一方で、大規模な実験の実施や複雑な計算式の活用など、私には理解が及ばない分野も多く、卒業研究発表会では、そうした多種多様なテーマの研究に大きな刺激を受けました。

今年度からは、文部科学省で教科書検定にかかわる仕事に就くことになりました。幅広い知識が必要とされる職で、芝浦工業大学で得た経験や、これまでの授業を通じて培った知見が発揮できる機会にも恵まれています。「高大接続」の重要性を意識しつつ、業務に進進していく所存です。

末筆ながら、在職中の四年間はお世話になり、本当にありがとうございました。

芝浦工業大学建築学部のみますますのご発展と、関係者の皆さまの更なるご活躍を心よりお祈り申し上げます。

【文部科学省 初等中等教育局 教科書調査官 社会科（地理）】

## 学科報告

### 2024年度の学科の近況と 学生の活躍

秋元 孝之（あきもと たかし）

建築学部長 建築学科教授



2025年3月、建築学部建築学科の学部生240名と理工学研究科建築学専攻の大学院生171名が、巣立っていきました。卒業式は、2025年3月17日に東京ガーデンシアターで実施され、建築学科の学部卒業生と大学院修了生はその後、豊洲キャンパスの大講義室に戻り、学位記授与式に参列しました。この式では、卒業研究、学業成績の優秀者の表彰も行いました。芝浦建築会の功刀強会長、百瀬和浩副会長、松寿章幹事にもご出席頂き、祝辞を頂戴すると共に今年度から創設された芝浦建築会賞を授与頂きました。

2024年度の卒業生の学業成績優秀者、卒業研究優秀各賞、修士論文優秀各賞は表1の通りです。

芝浦の建築系学生向けの設計コンペであるデザインチャンピオンシップでは東京藝術大学准教授であり株式会社中山英之建築設計事務所を主宰する建築家 中山英之先生を審査員にお迎えし、2024年10月27日に実施されました。コンペ終了後には、芝浦建築会にご後援頂き、懇親会を実施しました。ありがとうございました。芝浦建築会からは功刀会長、松寿幹事、徳田幹事にも参加いただき、教員、参加学生の交流を深めることができ、有意義な会となりました。

卒業生が関わるイベントとしては、業界研究セミナーを2024年6月14日に実施しました。総勢6名の卒業生に協力頂き、現役学生向けの講演を行って頂きました。講演者は表2の通りです。様々な建築分野で活躍する卒業生から、自身の職種について紹介いただくのと同時に、現役学生に向けてのメッセージを頂きました。こうした取り組みにより、現役学生と卒業生の会の交流が深まればと思います。卒業生の皆さまには、こうした会への参加、講演などをお願いすることもあるかと思いますが、今後ともどうぞよろしくお願い致します。



業界研究セミナーの登壇者を囲んで

**表 1 各賞受賞者名簿**

	賞名	氏名	
学業成績	学業成績最優秀賞・総代	平田 千尋	
	学業成績優秀賞・有元賞(学籍番号順)	豊田 佳杏	
		鎗田 涼太郎	
		原田 花	
	学業成績優秀賞(学籍番号順)	加藤 あかり	青野 一平
		吉野 由珠	國分 彩加
		新村 太洋	白石 竜輝
内山 尚嗣		草野 友里亜	
新井 聡里		土井 空翔	

**表 2 業界研究セミナー登壇者**

・構造設計/市川瑞生様	前田建設工業株式会社	小澤研究室(2016修士修了)
・コスト分野/齊藤由姫様	株式会社日建設計	志手研究室(2019修士修了)
・施工管理/菅谷泰誠様	大成建設株式会社	濱崎研究室(2016学部卒)
・意匠設計/田口誉様	Kengo Kuma & Associates	原田研究室(2010修士修了)
・設備設計/建部直弥様	戸田建設株式会社	西村研究室(2016修士修了)
・都市計画/山内豊季様	ランドブレイン株式会社	桑田研究室(2012修士修了)

	賞名	氏名	卒業研究題目
卒業設計	卒業設計最優秀賞・三浦元秀記念賞	末松 拓海	移住者の家_2025 ―グネウスロキを捕まえる 12 年の営み―
	卒業設計優秀賞・AP コース卒業設計賞	小山田 琢朗	Orchard hut ―山形県東根市小山田果樹園における後継の建築―
	卒業設計優秀賞(学籍番号順)	磯貝 紗羽	漁港で学ぶ漁業専門学校
		吉野 由珠	点と線 ―史実を書き、史跡を巡る―
		半田 洋久	ヒトがいる、モノがある、暮らしがある、一場所の再調整、仲間との実装の経過報告。令和 6 年能登半島地震被災地、黒島地区から―
		呉田 祐哉	折り、キリシタンの記憶 ―オラショが紡ぐ道具と遺跡の物語―
		國分 彩加	表裏の狭間 ―日本刀の本質の再生と現代の俯瞰視点―
	卒業設計奨励賞(学籍番号順)	西村 隆司	鎮守の堤 ―信仰と防災をつなぐ、埋立地の新たなランドスケープ―
		細田 雅人	異動の現象学 ―過疎集落の祖母と過密都市の幼馴染から考える、相補的インターフェイスの提案―
		有島 陽菜	趣橋都市 ―車両基地を媒介に鉄道オタクの視点で拓く新たな公共空間―
		金原 葉奈	風景をつくる喫煙所
		鈴木 創	駒沢回想録 2064 ―二つの東京五輪/ノスタルジアによる甘美なオルタナティブ・パストの啓示―
		河野 奏太	山谷生存拠点 ―山谷地域における現代市民のための建築の再構築―
	平田 千尋	Roman Polyphony ―自律性を誘引する余地の試み―	

	賞名	氏名	卒業研究題目
イオン・ミンク建築・都市大学賞	最優秀賞・First Prize	大池 智美	谷戸を渡る。～斜面林に広がる地域交流施設～
	2等・Second Prize	西野 豊	演劇集会所 ―フレームにより演出される新たな居場所―
		栗林 亜佐子	やわらかい革命 ―デモとマスの力を自覚する都市装置―
	佳作・Mention	吉野 由珠	点と線 ―史実を書き、史跡を巡る―
		入倉 秀太	不可逆の家 ―作り続ける、本当の「わたし」のすまい―

	賞名	氏名	卒業研究題目
卒業論文	卒業論文優秀賞・AP コース卒業論文賞	坂井 春菜	コンクリート用養生剤の性能評価方法と品質基準のための検討
	卒業論文優秀賞(学籍番号順)	太田 理央	在留外国人の住環境適応に関する研究 ―杉並区阿佐ヶ谷の在留ネパール人 を事例として―
		松崎 世那	アディス・アベバにおける小規模カフェ空間
		新井 聡里	長期暴露試験および促進試験による鉄筋腐食補修工法の評価と提案
		福島 水柚	観賞前後の消費行動からみた劇場・ホールの在り方 ―人々のふるまいを通して―
		内海 鞠乃	極度に劣化した RC 造建物・車庫島3号棟の構造性能評価と劣化の将来予測
		三嶋 二未香	部分高強度化鉄筋を用いた鉄筋コンクリート造有孔梁に関する実験的研究 ―開孔位置を寄せ水平補強筋を高強度化したことによる破壊性状の検討―
		中村 丘人	在日ネパール人ネットワークが就労に与える影響
		鎗田 涼太郎	3D プリントパネルを利用したモーメント抵抗接合の構造特性に関する実験的研究
		内山 尚嗣	インドネシアの建築生産システムに関する研究 ―労働者の日本渡航のプロセスおよび背景―
		金子 棕	深谷市における煉瓦建造物の建築的考察および活用方法 ―塚本燃料商店を通して―
		小泉 佑佳	都市部における人工砂浜の整備経緯と利用状況に関する研究 ―大森ふるさとの浜辺公園を事例として―
		池田 隼翔	自己再生型クリーンエア発生装置の開発 ―平面においての粒子付着、離脱の解析―
		岩森 大翔	スマートビルの再考 ―現在の取組と利用者需要の比較より―
		北村 綾香	鍾ヶ淵地区における持続可能性評価とその向上につながる防災施策の検討 ―CASBEE 街区を利用して―
		野田 啓介	植物の色相・彩度・明度が執務者の休憩の質に及ぼす影響
		佐藤 真梨	オープン電力データ利用エリア EMS の開発研究 ―町丁目レベルの電力消費特性に基づく省エネ支援優先エリアの選定方法の検討―
		香川 愛梨	繁華街におけるデジタルサイネージの掲出実態 ―池袋駅東口の店舗に設置された映像広告物を対象として―
		平塚 亮	GRC の塗装による下地保護性能の検証
		栗原 弘希	公民連携手法による公共施設と民間施設の一体的計画事業における実態の把握と地方中小都市での事業成り立ちに関する研究
	原田 花	ABW 型オフィスの室内環境と空間利用傾向の関係性に関する研究	

	賞名	氏名	修士論文題目
建築学専攻	総代	庄司 栄介	スラムに住む中流階級 バンコク、クロントイ・スラムにおける「コンパウンド」の居住実態
	有元賞(学籍番号順)	竹田 裕	都市のエネルギー・マネジメントシステムの開発研究 オープン電力データを 活用した脱炭素対策支援エリアの抽出方法の構築
		廣川 史恩	集落の消滅・延命。富山県日細入村を対象とした時間軸の建築的プロセス
	専攻賞(学籍番号順)	岡田 大和	スマートエネルギーシステムにおける VPP 運転機能の構築に関する研究 CGS 逆流時排熱回収システムの初期検証
		伊藤 智基	都市再生特別地区における公共貢献と規制緩和の関係に関する研究 東京都の 都市再生特別地区に着目して
		大津 洋	アジュール跡地における無主物先占空地の実態に関する研究
		岡田 尚子	複合型図書館における機能別可視特性の研究
		小野 純一郎	CO <sub>2</sub> ガスシールド半自動アーク溶接の溶接施工管理条件の合理化に関する研究
		河本 一樹	メディア社会における建築の象徴性 桂離宮の写真を通して、時代・思想によるイメージの揺らぎ
		佐倉 園実	「崇高」概念から再考する日本のブルーリズム 設計理念と表現手法の崇高 論的分析による建築の再評価
		佐藤 菜々	麗の断片 建築的マスキング効果による空間設計手法
		瀬能 一馬	コンクリート床のキャストによる摩擦および耐摩耗性に関する研究
		高添 祥太郎	建物データを活用したロボットナビゲーションシステムに関する研究
		森 万佑子	大嘗祭における建築空間の記録保存手法 大正大嘗宮の模型製作体制に着目して

**祝 芝浦建築会賞受賞**

	賞名	氏名
芝浦建築会	芝浦建築会賞	平田 千尋
		飯塚 優太
		金子 棕



建築学科の学位授与式



「芝浦工業大学名誉理事長 石川洋美先生を偲ぶ会」

石川洋美先生の七回忌が近づきました。これを機会に、皆様にご参集いただきまして、公私でお世話になった先生を「偲ぶ会」を相営みたく存じます。2025年11月29日(土) 14:00～16:30に芝浦工業大学豊洲キャンパスにてセレモニーと懇親会を行います。セレモニーでは、石川洋美先生の業績の紹介、思い出語り、献花などを予定しております。また、ご希望の方には先生が眠る都立八柱霊園(千葉県松戸市)内のお墓の案内図をお知らせ致します。詳しい情報や参加のお申し込みはこのQRコードよりご確認ください。【お申込み締切11月12日】

場所：芝浦工業大学豊洲キャンパス/東京都江東区豊洲3-7-5

日時：2025年11月29日(土) 14:00～16:30

14:00～セレモニー 有元史郎記念交友会館交流プラザ

15:00～懇親会 交流棟2階 生協ラウンジ

会費：5,000円 ※平服でお越しください。



パソコンやスマートフォンに不慣れな方は、お名前と卒業年、ご連絡先、参加のご希望、お墓の案内図の送付の要否を官製ハガキにご記入の上、以下の窓口までお送りください。

【〒135-8548東京都江東区豊洲3-7-5 芝浦工業大学 本部棟4階 教員サポートセンター内 郷田修身】

呼びかけ人

染谷清 / 69年卒 松寿章 / 78年卒 郷田修身 / 91年卒

会費納入のお願い

会員の皆様には、年会費(¥3,000-)の納入をお願いします。

- ゆうちょ銀行 振替 00160-9-187243 芝浦工業大学芝浦建築会
- 他行ATM等からの場合は、ゆうちょ銀行〇一九当座 187243

※振込用紙には住所、氏名、卒業学科名、卒業年、勤務先、連絡先電話番号を記載願います。

※会費以外にも寄付金(1口1,000円～)のご協力をお願いします。

2025年度役員

会長	功刀 強	1976卒
副会長	百瀬和浩	1985卒
	川口英樹	1990卒
	秋元孝之	建築学部長
事務局	事務局長	徳田直之 2009卒
	事務局員	米嶋 貢 1985卒
会計	郷田修身	1991卒
会計監査	浅見 勝	1976卒
	松寿 章	1978卒
幹事	西郷一夫	1994卒
	片倉隆幸	1981卒
	宮谷 敦	1986卒
	村島充裕	1988卒
	道田 淳	1993卒
	石黒 光	1996卒
	井筒悠斗	2023卒
	森日菜子	2025卒
顧問	濱崎 仁	SAコース代表
	志手一哉	UAコース代表
	谷口大造	APコース代表
顧問	染谷 清	1969卒

2024年度 会計報告

収入	繰越金		2,613,579
	年会費	206名×3,000円	618,000
	前年度会費	16名×3,000円	48,000
	新会員会費	340名×1,000円	340,000
	寄付	127名	375,000
	校友会支部助成金	150,000円(定額)・52,000円(定率)	202,000
	総会お祝い金	理事長・校友会会長	40,000
		小計	4,236,579
支出	会報	印刷2,900部、封筒1,490枚、払込票1,510枚 アンケート返信ハガキ1,454枚	310,422
	同上封入代	宛名シール1,454枚	64,988
	同上発送料	180円×1,454通	261,720
	同上デザイン	構成料他	110,000
	定期総会案内状	封筒、返信はがき、案内状1,326通、印刷代	114,752
	同上郵送料	84円×1,326通	111,384
	大学寄付	大学100周年事業・地方学生支援金	100,000
	芝浦建築会賞	卒業生3名、賞及び記念品	79,491
	学校行事支援	デザインチャンピオンシップ	117,440
	総会懇親会	補助費	41,000
	校友会	全国総会・懇親会支部賛助金	20,000
	事務費	振込手数料	1,815
		郵送料(返信ハガキ含)	15,526
		HPサーバーレンタル料36か月	7,920
		HP刷新費用	100,000
		小計	1,456,458
	次期繰越金		¥2,780,121

2025年度 予算案

収入	繰越金		2,780,121
	年会費	200名×3,000円/年	600,000
	新会員入会費	300名×1,000円/年	300,000
	寄付	100名	300,000
	校友会支部助成金	150,000円(定額)・50,000円(定率)	200,000
	総会祝い金	大学・校友会	40,000
		小計	4,220,121
支出	会報	印刷3,000部、封筒1,500枚	350,000
	同上発送料	1,500通	270,000
	同上デザイン	構成料他	110,000
	総会案内状	封筒・返信ハガキ・印刷1,400部	250,000
	学科行事支援	デザインチャンピオンシップ	150,000
	芝浦建築会賞	卒業生3名、賞及び記念品	100,000
	就職セミナー	助成金	20,000
	卒業パーティ	出席と祝辞	20,000
	校友会	全国総会・懇親会支部賛助金	20,000
	事務費	払込手数料・郵送料	20,000
	HP維持費	HPサーバーレンタル料、更新費用等	120,000
	通常総会	懇親会費用補助	50,000
	大学への寄付	地方学生支援資金	100,000
	予備費	講座、レクチャー、展示会等	300,000
		小計	1,880,000
	繰越金		¥2,340,121

あとがき

この度、会報第4号を発行することが出来ました。HP(卒業生の輪)からの寄稿と新たに活躍されている卒業生からの寄稿を加え、読み応えのあるものとなっています。また、HPでの発信も定期的に行い、この11月、12月にはイベントも予定しています。来年6月20日(土)の通常総会にも多くの卒業生が参加してもらえるように、創意工夫して発信できたらと思っています。ご意見等もHPにて随時受け付けております。

今回会報を発行するにあたり、寄稿・編集・協力いただいた方々には感謝申し上げます。

【芝浦建築会 副会長 川口 英樹】